

みなさんお元気ですか。

2017年8月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいます。



8月12日、同期の青年協力隊が任地で個人的に日本文化紹介イベントを開催したので、その応援にいった。任地は、マナグア市から急行バスで約3時間北東に行った所にあるエステリという町だ。消防署の2階が会場となり、そこで私はひとり演武を行った。今回の会場は遠い所にあったので、生徒の参加はなく、私一人で短刀と杖の形を披露した。演武を一人でやるのは初めてだ。1から5の太刀、組太刀4, 5, 6の打ち太刀の形、杖の形、正面打ち込み、八双返し、片手の部などの形を披露した。演武終了後、数秒間会場はシーンと静まりかえっていた。観客はどう思ったのだろうか。今回の会場の観客は初めて合気道という物を見たと思う。演武を終えてしばらくしたら、数人の人が興味をもったのか、質問に来た。その内の一人は、今までに空手や柔術、テッコンドーなどを習った。私がやった武器を使って、自分の技をもって広めたいので、ぜひ教えて欲しいという青年が言った。こういう青年には、あまり教えた気はしないが。



8月19日、当道場があるニカラグア日本友好公園で、ANEJA (アネハ) 主催の日本文化紹介があった。ここでも当道場の生徒たちと演武を披露した。先週は、連休があり、Susanの受賞式があり、十分な稽古時間がなかった。今回演武に参加した生徒は、たぶん1回くらいしか稽古をしていないと思う。今回の演武の演目など道場長に考えるように頼んでおいたのだが、二日前まで何の連絡もなかった。しかたがなく、私が参加者の演目や集合時間などを決めて全員に知らせた。当日になって全員が袴をはいて、また、我々の演武の前に子供が5人ほど出て来て、受け身などを披露した。私は、道場長が別の道場で子供クラスを持っていることは知らなかった。各個人の演技は、私が教えてないような技もやっていたが、全体的には、これでよし、としておこう。こちらの人は、稽古はしないが本番には出たがる。今回が任期中の最後の演武となった。



8月20日、久しぶりに書道の稽古をした。生徒の名前は Jose Abrahgam. 彼は合気道の生徒であるが、書道も熱心だ。今までに5, 6人に書道を教えたが、彼が一番興味を持っている。当初は、武道精神に関する熟語や漢字を教えたかったが、武道の話をしていたら、“腹ガ減ッテハ戦ハデキヌ”になってしまった。彼もいつも感じていることで、面白いと思ったのだろう。私は、このことわざは、このニカラグアで合気道を学ぶ生徒にはピッタリの言葉だと思う。こちらの生徒には、衣食住が十分足りてないように思う。だから、趣味の時間も経済的な余裕もないので、稽古には来られないと思う。また、合気道の理念などは、中々理解できないのではないかと、思う。でもこの生徒は、少し違う。合気道によって人間の品格形成や武道精神を理解しているようにも思う。彼は、将来は合気道の先生になりたいと言っていた。



8月23日、昇級審査を実施した。今回が、私の任期中での最後の審査となる。受験者は、David (デビット) で受けは、Xochilite (ソチ)。デビットは、私が就任した2年前からの生徒だ。以前から審査を受けたいと言って申込はしていたが、健康を害したなどの理由で、受験したことがなく、今回が初めてとなった。彼は、1か月ほど前から、今回の審査を待ちかねていた様子だ。彼は、いつも今度の審査はいつしますか、とよく私に聞いていた。そして、この1か月間は、休まないでよく稽古していた。彼は、性格がおだやかでまじめである。ラテン的な調子の感情や態度などは見せない。彼は家具職人で落ち着いた感じだ。今回の審査規定の技は、無難にこなした。私も道場長のアニバル先生も特に問題はないとして、合格とした。彼はこの道場では、古株の先輩となる。これからも先輩として、後輩を見てくれる存在であって欲しい。

